

## 令和6年度「特色ある学校づくり事業」実践事例



### 地域・学校の環境

本校区は、400年以上の歴史をもつ伝統ある窯業の里であり、三川内山・江永・木原の三皿山を中心として、多くの陶工が、「三川内焼」の生産にあたっている。陶工たちは、平戸藩御用窯として育まれてきた窯業文化を受け継ぎ、伝統工芸品である「唐子絵・花鳥山水・透かし彫」等の技術でつくられる「三川内焼」の作陶と開発に励んでいる。

本校は、豊かな自然にも恵まれ、歴史と伝統を受け継ぐ、素晴らしい教育環境の中にある。本校では、「あったか三川内」を合言葉に、伝統ある学び舎と家族的な温かい雰囲気の中で、素直で純朴な児童が仲よく健やかに学校生活を送っている。地域住民の学校教育に対する期待と関心は非常に高く、学校の教育活動に対し、大変積極的に、熱心な協力や支援をいただいている。

地域の関係機関・団体と協力・連携を図りながら、学校・家庭・地域が一体となって、様々な取組や諸活動を展開し、「地域と共にある学校」「ふるさと三川内を愛する絆づくり」を推進している。

本年度もこれまでの行事・活動の内容を見直し、工夫を加えながら、地域住民・家庭と連携を図りながら取り組んだ。

### テーマ 「郷土を知り、郷土を愛する心豊かな児童を育てる」

### 目的

- 郷土の伝統産業である窯業文化を学ぶ学習
- 郷土の豊かな自然環境を知り、自然の浄化作用を学ぶ環境学習
- 地域の人々との関わりを通じた福祉学習
- 豊かな人間性を育む基礎となる学力の充実
- 学校を拠点とした地域教育力活用による「地域と共にある学校」づくり



## 実践内容

### 1 「交流」体験活動…地域の方々とふれ合う活動に、積極的に取り組んだ。

- ① 自然体験学習…3年生は、小森川の水生生物を調べ、自然環境を追究する課題を設定した。水生生物に詳しい講師を招いて、小森川に生息する生き物や自然環境を保全する大切さについて教えていただいた。また、学んだ内容をタブレットでまとめ保護者・地域の方に発信することができた。自分たちが住んでいる三川内の自然の豊かさを再発見することで、地域のすばらしさに関心をもち、郷土に愛着をもつ心が高まった。



- ② 三川内っ子ふれあいタイム……………11月22日実施。初めに「オープニングセレモニー」を行い、各学年の活動内容のアピールや3年生がアルカス佐世保で披露した音楽発表会の出し物を披露した。午前中は、第1部・第2部と活動内容を分け、学年ごとに工夫を凝らした内容を実施した。地域53名 保護者133名合計のべ186名の参観があり、地域・家庭の関心の高さが伺えた。また、健全育成会等より4名と地域講師3名の協力を得ての活動を行った。各学年の内容は以下の通りである。

<1・2年生>：おもちゃで遊ぼう「秋となかよし、秋フェスタ！三川内わくわく広場」

自分たちが生活科や図工科の学習で作った「手作りおもちゃ」や「楽しいおもちゃ屋さん」（輪投げ・的あて・ボーリング・動くおもちゃ・小さなおもちゃ屋さんなど）を体育館で店を出し、地域の方々や保護者、園児等と一緒に楽しく遊んだ。お客さんである地域の方や保護者の方に賞賛や助言をいただくことで、子どもたちはより良い出店にしようという工夫しながら活動できた。参加した人には、手作りの景品や記念品を用意し、世代を超えた人と人との温かい交流の場となった。

<3年生>：「大好き！三川内のいいところ！」・「親子でしめ縄リース作り」

第1部では、小森川調べで学習した内容のテーマを決め画用紙やタブレットでスライドにまとめ発表を行った。第2部では、地域の達人に指導していただきながら、親子でしめ縄リース作りに取り組んだ。事前に個人で用意していた飾りを使い、思い思いのリースを制作した。藁を上手に編み込む達人（地域の方4名）の技に魅了され、更に地域への愛着を増した時間となった。

<4年生>：「福祉体験学習発表会」・「親子で焼き物絵付け体験」

9月～1月に社会福祉協議会の協力のもと福祉体験学習を実施した内容を、タブレットを活用してスライドにまとめ活動内容の発表を行った。アイマスク体験や車いす体験、妊婦体験を行った後、地域に出て実際に福祉の工夫について探した。調べたことについて感想を交えながら発表を行い、社会福祉の大切さを改めて学んだ。第2部では、三川内陶



磁器工業協同組合の方に指導を受け、皿の絵付けを行った。絵付け体験は三川内ならではの活動であり、三川内の伝統産業のすばらしさを直接指導していただく貴重な体験となっている。親子でのふれあいの時間でもあったが、親子共に大変集中して絵付けに取り組むことができた。自分たちが絵付けをした焼き物が戻ってきたときの嬉しそうな表情からも、「三川内焼き」に対する愛着が更に増していた。

<5年生>：「おにぎり・味噌汁作り」

5月の種まきから始まり6月の田植え、10月の稲刈りと地域の方の協力を得て体験した。学習を通して米作りの大変さを実感し食に対する思いを深めた。その後、収穫したお米を使って親子で調理を行った。味噌汁作りなどの、6月に味噌店の方を講師に招いて作った手作り味噌を用いた。地域の方々や保護者に、自分たちが作った「おにぎり」と「味噌汁」を振舞い「おいしい。」と大好評であった。また、稲作の指導者を招待し感謝の気持ちを伝えた。農業体験や味噌作りなど、活動全般を通して地域にある「人・もの・こと」の豊かさやつながりの大切さを学んだ。活動後の子どもたちの誇らしげな表情は、充実感・達成感に満ちていた。

<6年生> 「世界へ発信！わたしたちの三川内！」

長崎国際大学の留学生との交流を通して、日本と外国との文化の相違点に気付き、改めて地域のよさを実感した。ふれあいタイムでは、三川内のよいところ、誇れるところや課題について事前に調べたことをもとに、若手陶工として活躍中の卒業生を窯元から講師として迎え「将来の三川内」についてディスカッションを行い、地域の将来について真剣に考えることができた。また、三川内について「世界へ発信」できるよう英語・中国語・韓国語に翻訳し、保護者・地域の方、留学生に紹介した。留学生や本校出身の先輩との交流を通して、新たな考えに気付くとともに、現状から課題を発見することができた。発表に向け相手意識を高め、伝えたい内容を精選、整理するなど表現する力を高めた。世界や地域を深く調べる活動を通して、さらに、郷土愛を深めることができた。

### ③「遊びの達人塾」

本年度は6月・11月に2回実施した。健全育成会10名、PTA10名の協力のもと、こま回し、竹とんぼ、ハマ投げ等、昔遊びを中心に縦割り班で遊びのコーナーを回り地域・保護者に指導を受けながら楽しく遊ぶことができた。



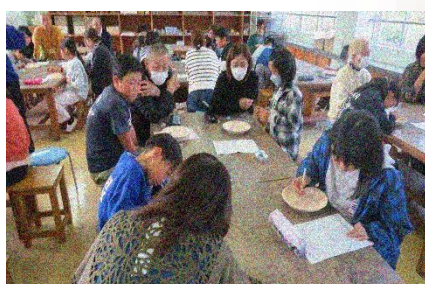
1年生の元気な発表



手作りおもちゃの出店



達人のしめ縄づくり



絵付け体験



おにぎり・味噌汁作り



三川内のよさを伝える



- ④ 学校図書ボランティア「WAKU WAKU おはなし隊」…毎週火曜日 8：25～8：40 各学級へ入り、読み語りをしていただいている。学年に応じた内容の絵本を表情豊かに読み聞かせながら、時折子どもたちに質問を投げかけたりと、子どもたちを本の中の世界に導いてくださっている。子どもたちは、火曜日を楽しみにしており、読書に親しむ児童が増えている。



## 2 「ふるさと三川内」体験探究活動

- ① 三川内の伝統工芸である三川内焼について学年を越えて探究する。課題を見付け、調べ、まとめる活動を通して、ふるさと三川内のよさを改めて実感する学びとなる。2年生「町たんけん」4年生「福祉体験学習・うつわ会館見学」6年生「伝統産業会館・窯元職人による講話」の体験学習を通して地域の中の三川内焼きについて学んだ。また、全校で「唐子絵大会」を開催し全児童が思いを込めて唐子焼の絵柄を描き楽しみながら、三川内が誇る伝統工芸に親しんだ。地元三川内焼きの高度な技術や伝統工芸のすばらしさに気付き関心を高める子が増えた。さらに、高学年になるにつれ主体的な学習へと学びが高まっている。

## 3 「栽培・収穫」体験活動…児童は豊かな自然の恵みを味わい、地域の「達人・名人」からの、いのちの尊さや生産の努力や苦勞について学んだ。

- ① 校区内水田での米作り体験活動…5年生が、地域の「米作り名人」の方々に熱心に御指導いただき、種まき・田植え・稲刈りまでの米作りを体験することができた。学級役員さんとの連携を図り、保護者と協力して実施した。保護者自身が米作りが初めてという方も多く、子どもたちと共に米作りの大変さを実感していた。裸足で田に入り田植えをしたり、カマを使って稲刈りをしたりすることで米作りの苦勞を知り、改めて「食」に対する感謝の気持ちをもつことができた。
- ② 学校園でのサツマイモ栽培活動…1・2年生を中心に、親子で芋さしから芋掘りまでを体験し、収穫の喜びを味わうことができた。



田植えの様子



達人の説明



稲刈りに挑戦



たくさんのお芋がとれました

#### 4 「おもてなしの心」「かかわり合い」で心豊かに

- ① 手作りのおにぎりと味噌汁…5年生による11月のふれあいタイムでの取組。児童が作った米と味噌を使って、心を込めて「おにぎりと味噌汁」を作り、米作りから、脱穀までを指導していただいた地域講師や保護者を招待し感謝の気持ちで「おもてなし」した。今年も、たくさんの地域の方に来ていただき活動体験の喜びと感謝の気持ちを伝えることができた。
- ② 異学年とのかかわり…毎日の集団登校や、「縦割り遊び」「花いっぱい運動」「三川内スポーツ」「三川内エンジョイ」など、異学年と関わる活動を実施することで、相手の気持ちを察し、考えることができる豊かな心を育てている。今年度も、「花いっぱい運動」で使用する花苗を、5・6年生が種から育てた。また、「三川内スポーツ」は、体育委員会の子どもたちが「三川内エンジョイ」は、運営委員会の子どもたちが企画・運営を行い、全校の子どもたちの中に定着し、誘い合って参加している。会の企画・運営のやり方にも慣れ、高学年の子どもたちが主体的に運営することができるようになってきている。



花いっぱい運動説明



花いっぱい運動



縦割り遊び

三川内小学校では  
**「あったか三川内」**を合言葉に  
三川内の地に足を着け、三川内を愛する  
心豊かな児童を育てています！

